



新しい精子選別デバイス

「1人でも多くの人を救いたい」という創業者の意志のもと、医療機器の輸入販売を精力的に行っています。

東機貿は『1人でも多くの人を救いたい』という創設者の意志のもと、1955年設立以来、医療機器の輸入販売を行っております。創設者・佐多保之の祖父である桜井郁二郎は、日本最初の産婆学校と産婦人科専門医院を設立した医師であることから産婦人科領域に縁が深い会社です。

1986年にクックメディカル社と代理店契約を行い、体外受精関連の製品としては日本で初めて輸入承認を取得しております。2019年には、新しいマイクロ流体技術を用いた精子調整関連製品の販売を開始しました。近年注目を浴びております精子ですが、精子処理方法は体外

受精が始まって以来、ほとんど変化がありませんでした。マイクロ流体技術を用いた新しい精子処理の製品は、遠心分離せずに精子を回収することができます。

今後も、さらなる不妊治療の医療向上に協力することを目指し、『体外受精』の製品を弊社が代理店として日本市場に提供していきたいと考えております。

また、体外受精のみならず、産科分野の製品も強化しています。体外受精から産科関連製品まで、生命の誕生に関わる製品を扱うため、企業倫理の確立が不可欠であります。弊社は、外部講師による研修会や社内研修により、社員一人ひとりが倫理意識の向上に常に努めています。

ZyMot スパームセパレータ / 不妊治療における精子選択の重要性



精子によって卵子に運ばれる父親の遺伝情報= DNA は、母親の DNA と融合して子供の DNA を形成します。生児獲得率に影響する因子は卵子、精子、着床する子宮の状態が強く関連づけられています。

もし、DNA に異常を持つ精子が卵子と受精してしまうと、その後の胚発生と生児獲得の両方に負の影響を及ぼす可能性があります。DNA 異常を持つ精子が ART 成績の低下を招かないよう、治療においてはどのように最適な精子を選択するかが重要です。